

会報

No. 55

平成13(2001)年8月15日

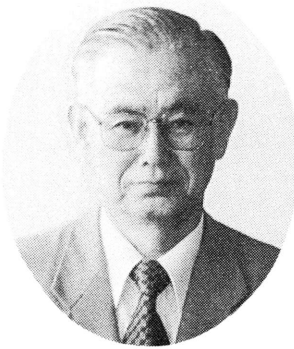
京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075)762-4655

京都に図書館新時代の創出を

京都府立図書館長 中里 隆 憲



五月十日、荒巻禎一京都府知事を

はじめ、多くの皆様にご出席いただき、
翌十一日から新館オープンとなった。

開館二か月目を迎え、一日の平均
来館者数は一千四百名近く、図書館
カードの登録者数も六月末で八千名
近くに達している。一日平均の貸出
冊数も七百冊近い。マルチメディア
閲覧室のインターネット端末は、い
つも満杯。京都府図書館総合目録を
インターネットにより発信している
こともあって、府内のみならず全国
からの問い合わせも結構多い。ホー
ムページへのアクセスは毎日六百件
前後となっている。こうした利用状
況をみてみると、新府立図書館の開
館は待たれていたのだと、つくづく
思う。

実際、利用者の熱心さには敬服さ
せられることが多い。読書を楽しむ
方もおられるが、探求心旺盛に調査
や研究に没頭されている方が多いよ
うに思う。そうした様子を見ている
と、生涯学習時代の到来を実感する。
また、本館がこれから担っていかな
ければならない中心的役割が、ど
こにあるかもはっきりしてくるよう
にも思う。

図書館の種類は多様である。学校
での学習を支え、さらに子どもたち
の健全な教養を育む学校図書館、学
問の研究を進めるにはなくてはなら
ない大学図書館、特定の専門的な研
究のために設けられている専門図書
館、国の図書館サービス網の中心と
なって「図書館の図書館」として国
民に奉仕する国立国会図書館。数多
くある図書館がそれぞれに課せられ
た責を果たすことによって、全体と
して豊かな図書館の活きた社会環境
が整えられていくのではなからうか。
例えば、いま子どもたちの読書が危
機的な状況にあるといわれている。
その中でも、中高生の読書の落ち込
みが大きいのであるが、これには中
高等学校の図書館を中心としたヤン

グアダルトへの読書の強い取り組み
が必要であろう。

同じ公共図書館でも貸出冊数を大
切にしている市町村の図書館に比べ
て、本館のようなところでは、その
府県の中核的な図書館として市町村
の図書館を支え、府県民へのできる
だけ均質なサービスを限なく提供で
きるように心がけるとともに、生涯
学習社会において人々の「豊かな学
び」をも積極的に支援するのが使命
になってきているのではなからうか。

二十一世紀の初頭に新しいスター
トを切った本館は、これまで以上に
府内の市町村立図書館などとの連携
を強めたいと考えている。府立図書
館は、K-L i b n e t等を通じた
支援を行うことにより各地の図書
館の住民サービスをトータルに支え、
他方では、地域図書館それぞれの充
実と発展による住民サービスに支え
られ、ともども車の両輪となって京
都に図書館の新時代を創出したいと
切に願っている。



平成十三年定期総会開かれる

平成十三年定期総会が五月三十日(水)に、新装なった京都府立図書館で開催されました。

総会は、村上台長のあいさつに始まり、つづいて、来賓あいさつを京都府教委社会教育課西園明参事、歓迎あいさつを府立図書館石沢誠司副館長からそれぞれ受けました。また、本年度の人事異動等により、一部理事の交替、変更が報告されました。

水島弘之理事から一井晴機氏(福知山市立図書館)へ、山下昇理事から田川幸男氏(亀岡市立図書館)へ、大橋紀雄理事から福井秀明氏(京都市伏見中央図書館)へ、今泉八寿代理事から佐藤信夫氏(府立図書館)へと、それぞれバトンタッチが行われました。

また、顧問として中里隆憲京都府立図書館長、大槻明司京都府立総合資料館長、梶村健二京都市中央図書館長の三名の方々へ委嘱することも承認されました。

◇総会議事

総会は、久御山町立図書館長小山豊嗣氏を議長に選出。加盟館六十五館の内、出席三十六館、委任状提出二十館により総会が成立しているこ

とを確認して、議事が進められました。

最初に、平成十二年度会務報告・決算報告・監査報告が行われ、いずれも報告どおり承認されました。

また、河原忠監事の転出に伴い、新監事として中村和男氏(京田辺市立中央図書館)が選出されました。引き続き、平成十三年度事業計画・予算の提案と、併せて「資料の相互協力に関する申し合わせ」について報告・説明が行われ、一括して審議に移りました。

質疑では、五月二十三日に開催された「府立図書館総合目録ネットワーク会議」で明らかにされた、六月一日からの「ネットワークシステム事業(K-Libnet)」開始や「ネットワーク会議」と京図連協の

関係、さらに「FAX版WANTED」の今後の取扱いなどに、質問、意見が集中し、各館の関心の高さがうかがえました。

◇会務報告

会務報告では、はじめに府内市町村での図書館をめぐる状況として、十三年四月に精華町立図書館が新館オープンし、また、新府立図書館が

五月十一日にオープンしたこと。網野町では、十四年秋の開館をめざし、三月に着工されたことや、京都市下京図書館が、新築移転で今夏に、さらに岩滝町立図書館が秋に、それぞれ開館を予定していることなどの動きが報告されました。

また、特徴的な動きとして、府民一人当たりの蔵書冊数や貸出冊数が順調に伸びてきている状況や、さらに「子ども読書年」に合わせた各地域での活発な取組みや、コンピュータ導入の動きの活発化などの様子が報告されました。

◇事業計画

平成十三年度の事業計画では、総会・理事会の開催をはじめ、研修・研究、相互協力、広報等の各事業の他、「ネットワーク会議」の円滑な運営などが新たにかけられ、それぞれの委員会が図られることとなりました。

また、図書館振興のため関係機関への要望活動や、第十回図書館大会の成功に向けて積極的に貢献していくことなどについても確認されました。なお、総会の席上では、図書館等に永年勤続し、図書館活動の普及に尽力して功績のあった職員十三名の表彰も行われました。

◇十三年度表彰者

金井美稚子(京都市向島図書館)

長島 幸子(京都市久我のもり図書館)

浅田美乃里(京都市右京図書館)

馬場ひろみ(京都市洛西図書館)

中川 新也(京田辺市立中央図書館)

宇野 亜紀(京田辺市立中央図書館)

林 芳男(井手町図書館)

三輪 素子(京都府立総合資料館)

西村 文子(京都府立総合資料館)

西村 隆(京都府立総合資料館)

戸田 敏子(京都府立図書館)

亀村 志保(京都府立図書館)

池田 慈子(京都府立図書館)

◇施設見学

総会終了後、五月十一日にオープンした府立図書館の自動化書庫や、マルチメディア閲覧室、集密書庫など、最新の施設・設備を参加者一同熱心に見学を行いました。

◇新館長紹介

京都府立図書館 中里 隆憲

京都市中央図書館 梶村 健二

同伏見中央図書館 福井 秀明

同岩倉図書館 浅田 勝

同吉祥院図書館 大杉美恵子

京田辺市立中央図書館 中村 和男

宇治田原町立図書館 中辻 正

山城町立図書館 山崎 隆男

亀岡市立図書館 田川 幸男

福知山市立図書館 一井 晴機

岩滝町立図書館(新設) 糸井 範子

◇ 第一回 理事会より

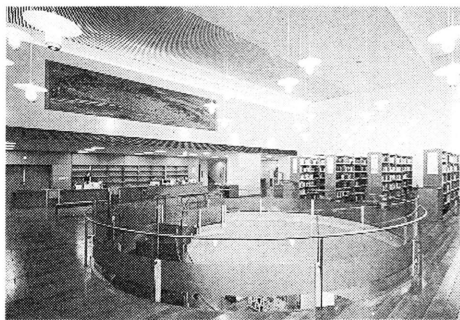
今年度最初の理事会が四月十八日に府立図書館で開催され、総会開催に向けて、平成十二年度会務報告・収支決算報告、十三年度事業計画・予算案、顧問の委嘱等が審議され、定期総会に諮られることとなりました。また十三年度職員表彰者についても決定されました。

さらに、相互協力委員会からの提案事項である「資料の相互貸借に関する申し合わせ」についても一部修正を加えて承認されました。なお、「京都府図書館総合目録ネットワーク会議」の発足に向けて、京図連協の役割や課題についても熱心な議論が行われました。

◇ 各委員会新委員の紹介

- 〔総合目録ネットワーク検討特別委員〕
委員
福知山市立図書館 一井 晴機
亀岡市立図書館 田川 幸男
- 〔研修研究委員〕
委員長
福知山市立図書館 一井 晴機
委員
京都府立総合資料館 池田真知子
〔相互協力委員〕
委員長
京都府立図書館 佐藤 信夫
委員
京都府立総合資料館 池田 澄美

府立図書館が5月に新館オープン



新しい府立図書館が五月十一日に開館しました。図書館は地上四階・地下二階建てで、約百五十万冊の収蔵機能があります。また、館内には各種マルチメディア端末が設置されており、さまざまなデータベースの利用が可能になっています。今回、広報委員が府立図書館に取材に行き、色々と気になる点をお聞きしました。

新しい府立図書館が五月十一日に開館しました。

- 京都府立図書館 小林 育子
〔広報委員〕
委員長
京都市伏見中央図書館 福井 秀明
委員
京都府立総合資料館 佐野 千里

Q 各種マルチメディア端末とは、どんな端末ですか。

A 利用者用として、インターネット閲覧端末十台、CD-ROM閲覧端末十四台、外部有料データベース閲覧端末二台、貴重書データベース閲覧端末三台、AVブースとして、ビデオテープ・DVD用、音声CD用が各六台あります。

Q インターネット利用の仕方や、利用状況はどうですか。

A インターネット閲覧端末の利用は、一時間単位としており、無料です。また、開館以来ほとんど満席状態です。

Q OPACはローマ字入力をひらがな入力に変更できますか。ひらがな入力の要望はありませんか。

A キーボード操作はローマ字入力の方のほうが多い現状に見合った設定としていますが、端末操作で簡単に変更できますし、操作できない利用者には職員が要望のつど変更しています。

Q 自動化書庫の資料数と、最終的な収蔵数はいくらでしょう。

A 四十万冊の収蔵能力があります。が、現時点では二十万冊が収蔵されています。

Q 自動化書庫を実際に稼働されてみた感想はいかがでしょう。

A 本のありかに関係なく、また職員が出納に走ることなく本が出てくるのは、驚きを超えた機械であり、今後、大規模図書館の収蔵方法として各地で採用されるのではないのでしょうか。

Q 連絡協力車の運行が月二回から週一回になりましたが、WANTEDなど、今後資料の流れがどう変わっていくのでしょうか。

A 連絡協力車運行の倍増により、郵送等によらずに府内の物流の迅速化が図れました。また相互貸借による物流はネットワーク参加館では電算管理となり、いわゆるペーパーレスによる協力事務が実現しています。

Q 府立総合資料館とはどのような資料区分となったのでしょうか。

A 資料館は、京都に関する歴史資料を保存・提供するという条例目的がありますので、主に日本歴史・美術・官庁資料・和装本が残され、それら以外は全て府立図書館に移管されました。

Q 開館するにあたり、苦労されたことは何でしょうか。

A 現在地での建て替えに伴う、数度の図書移転と資料館からの移管図書との合併排架でしょう。また、新しい府立図書館像の確立とネットワーク利用による図書館協力の実現は道半ばというところでしょうか。

◎ ネットワーク特別委員会

五月十一日リニューアル工事を終えた府立図書館が開館し、府図書館総合目録ネットワークシステムも本格稼動いたしました。

また五月二十三日開催された府立と京図連協共催の会議で、京都府図書館総合目録ネットワーク会議が発足いたしました。

平成十二年八月発行の五十二号で特別委員会のあゆみを振り返りましたが、総目ネットが市町村にとって便利な、住民にとってメリットのあまるものでなければなりません。

府立図書館では、来年の早い時期にFAX版WANTEDを打ち切りたい意向のようですが、総会でも意見があったように、コンピュータを持たない図書館(室)の相互貸借をどうするか早急に結論を出す必要があります。

特別委員会では、B参加館や未参加館の今後の計画を調査し、必要に応じて各館(室)と個別の打合せをしていきたいと思っています。

また、実務者レベルのコンピュータ取扱講習会を重ねるよう府立図書館にお願ひし、解りやすく、使いやすいものにしていきたいと思っています。

◎ 研修研究委員会

平成十三年度第一回研修研究委員会を去る七月四日に府立図書館で開催しました。この中で、今年度の事業計画を検討し、おおむね次のとおり立案しました。

○南部(一泊)研修(ブロック責任・久御山町立図書館)

九月二十・二十一日(予定)

京都厚生年金休暇センター(泊)

ところ 京田辺市立中央図書館

テーマ 「図書館広報誌」

○北部研修(ブロック責任・宮津市立図書館)

十一月八・九・二十二日のいずれか予定

ところ 福知山市立図書館(予定)

テーマ 「製本と修理実習パート

2」か「ブックトーク・ストーリー

テリング」

○中部研修(ブロック責任・京都市

下京図書館)

一月予定

ところ 未定

テーマ 「インターネットを使い

こなそう」

細部については、各ブロックにお

いて、さらに検討してまいります。

研修会の案内が届きましたら、お誘

いの上、多数の参加を期待します。

◎ 相互協力委員会

平成十二年度第二回相互協力委員会を三月十六日府立図書館で開催。十三年度から実施されるK-Libnetでの相互貸借業務の実務について第一回委員会に引き続き検討し、「資料の相互貸借に関する申し合わせ(案)」、「相互貸借の流れ(案)」を作成した。

四月十八日理事会で「出版後一年未満及び新刊本・リクエストの多い資料は相互貸借の対象としないことができます」と追加修正され承認された。

また府立図書館からFAX版WANTEDについて十四年度中に廃止したい意向が示された。

第一回委員会において相互協力委員も参加することが確認されていた

「京都府図書館総合目録ネットワーク会議」が五月二十三日に京都府立

図書館で開催され、座長に佐伯府立図書館総務課長、副座長に林井手町

図書館長(京図連協理事)を選出した。

六月一日から府内十八市町村(学園大学を含む)を結ぶK-Libnetの相互貸借がスタートした。

◎ 広報委員会

平成十三年度第一回広報委員会を六月七日に府立図書館で開催し、今年度の発行計画・会報五十五号の編集方針等を協議しました。

今年度の会報発行は年三回とし、

・第五十五号 八月十五日

・第五十六号 一月十五日(予定)

・第五十七号 三月十五日(予定)

と決定しました。



▼ 編集子 ▲

新しい府立図書館が五月にオープンしました。

今号では、巻頭で府立図書館長に新しい図書館の案内と今後の抱負を語っていただき、特集記事では新府立図書館に対しての「Q&Aコーナー」を企画してみました。

図書館間のネットワークが、ますます重要になってくると思われ、この会報が会員間の情報交換やネットワークづくりの一助になれば、と考えていますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。